



## 東地中海地域ニュース

### トルコ：コソボ独立/駐トルコ・セルビア大使の本国召還

(2月20日付現地紙)

2月20日、セルビア政府はトルコのコソボ承認に対してチュルグス (Vladimir Curugus) 駐トルコ大使の本国召還を決定した。

1. チュルグス駐トルコ大使は、20日にトルコを出国する予定で、メディアに対して「トルコの決定は国際秩序に悪影響を及ぼし、バルカン半島はじめ多くの地域を不安定化させる悪しき前例となるだろう。コソボの一方的独立宣言に対するトルコの承認決定は、地域の安定に負の影響を及ぼすことになるだろう」と述べた。
2. アパカン外務事務次官は、チュルグス大使に対し、「一日も早くトルコに戻られることを期待する」と述べた。
4. トルコ政府は、コソボ独立を受けて、タシエル (Mehmet Taser) 大使をプリシュティナに派遣した。今後、在コソボのトルコ代表事務所を大使館に変更する予定である。更に、ババジャン外相が、来月コソボを訪問する予定である。

#### <参考>

コソボが独立を宣言して4日が経とうとしているが、米国の承認に続いて、EU外相理事会(18日)で、加盟27カ国のうち、17カ国が(コソボ独立の)承認、または承認する意向であることを示した。他方スペインやキプロスは現在までのところ独立に反対を表明している。これは国内にバスク独立運動など分離独立運動を抱えていることが反対の要因に挙げられる。またロシア、イスラエルなども反対を表明している。

一方アラブ諸国は現在までのところ、この件に関しては静観の構えである。他にはセネガル、台湾などが独立を承認した。

一部報道によると、セルビア外務省は、トルコ以外に、フランス、アルバニア、アフガニスタンの大使や外交団らに帰国や公務停止を命じており、セルビア政府は、今後コソボを承認した各国政府に抗議文を提出後、外交関係の見直しなどを検討することを示唆している。